

COOP-JOSO News Letter

【ものづくり 人づくり 地域づくり】総代会特集 (2) 来賓あいさつより

福島の人たちの 苦難を共に

あいコープふくしま
佐藤理事長さん



原発事故から1年 いのち大切に つながって

セシウムは消えていません・・・皆さんの協力の支えで今

郡山市 あいコープふくしま 佐藤孝之理事長

皆さんの支援がなかったらこのような形で挨拶することもなかったと考えております。

福島の実状は、報道での取り扱いはいまだ減っています。空間線量は確かに半減しています。しかし矛盾は深く広く、沈静化はまだ遠い状況です。

果樹は、最近の情報ではこの雪の間にセシウムが木の根っこ部分までずっと深く、30センチ前後まで沈み込んでいます。実際は今年の方が桃、梨、りんごに移行する可能性が非常に高いです。もちろん我々はこの1年間、生産者と必死に対策をとってきました。その対策をとったところはいけるんじゃないかと考えていますが、

そうじゃないところは昨年以上に被害が出る状況も十分に想定されます。セシウムは消えていません。そういう認識です。

そして実際、いろいろな矛盾も広がっています。浜通りを中心に浪江や富岡の人達が15万人ほど避難しています。その人たちの生活状況には報道されないことが山ほどあります。どの町でも津波で多くの人が亡くなりました。しかしその後の避難生活で5、6倍の人が亡くなっています。その矛盾は深刻になっているのが事実です。これが何年続くのか、早くどうにかしてくれと。そういう避難者の声がたくさん聞こえます。

かけているところですよ。

相馬は原料をなくしてしまった町なんです。野菜は除染が可能かもしれませんが、海の除染は不可能だといわれています。相馬には2,000人弱の漁師さんがいますので、今は物資というよりコミュニティー、心のケアに入っています。私はリヤカー支援隊というも運営してまして、全販設を回っていますが、だんだんと疲弊しています。朝からお酒を飲んでうだうだ言ってる人もいっぱい出てきました。



ただ物をやるという次元から、心と心を触れ合わせ、ここでなんかやろう、物を作ろうとする意欲が今被災地には必要です。



全国の生産者が相馬に結集。常総生協の朝市を開催

ほんとういうことが常総生協の皆さんはすごく強いんです。このような絆をますます大きくして、私たちのことを助けてください。通常総代会ほんとうにおめでとうございました。

原発事故を二度と起こしてはならないんだと、立ちあがったみなさんに敬意を

東海村村議会議員 相沢一正さん

生協運動の重要なこうゆう場面に立ち会わせていただきまして感謝申し上げます。今までの話を聞いただけでも常総生協が、人のためになるいろいろな活動をされているということがよくわかりました。

私と常総生協との付き合いは10年前からです。東海村で議員になったときに何をやろうかと思った時に、菜の花で油を搾ろうと「菜の花会」を作ったんです。はじめて種をとって油にするのに常総生協さんのところにお伺いしました。その頃常総生協さんはすでに菜種を栽培して油を搾っておられたので、小さな卓上の搾油機をお借りしたのがはじめてのお付き合いでした。

今日ここでこのような形で皆さんとお会いしましたけれども、なんといいても3.11の後、裁判をやろうと一番最初に提起したのが常総生協さんで、そしてなんとしてもこの福島原発事故を受けて、放射能汚染の被爆により世界全体が失われる、自然の大地が失われると共に、コミュニティーが奪われる、ああいう事故を絶対二度と起こしてはならないんだと。そして実際に小さいお子さんをかかえている方々の不安、放射能の子供達への影響に危機感を持たれている。それが近くにある東海第2原発がまた事故をおこしたら大変だと立ち上がってると思いますが、本当にこの今日の「先駆者」といいますか最初に声を上げたことに敬意を表したいと思います。

同時に私も原告のひとりになりまして、これからさらに頑張っていこうと思っていますけれども、この常総生協

さんの動きが今の裁判の大きな流れを作ったのだと思います。改めて感謝を申し上げたいと思っています。



今日は39回の総代会ということなんですが、ちょうど私たちが設置許可が違法だと東海第2原発について行政裁判を提起したのが1973年なんです。ちょうど39年目なんですね。いまの食の問題、命の問題。これを考える以上、原発はなくしていく以外にないと本当に私は思うし、確信しております。

大飯原発の再稼働が濃厚になってきましたけれども、あの首相が「国民の生活のため、日常の生活を守るため」という言葉を何回も記者会見で言っていましたけれども、なんとむなしい言葉かとラジオで聞いていました。何が安全性が確保されたんですか。なんにも確保されていないし、国民は納得していないと思います。さらに電気料金の問題で国民生活が大変になるといっても、実際に電気が足りなくなるといことが証明されていないじゃないですか。そんな言葉をとてもまともに受けられないという風に思います。

おそらく2番目の再稼働なんてことはできないんじゃないかと私は思いますし、2番目の再稼働をしないようにこれから頑張っていきながら私達東海第2原発の廃炉に向けての運動を進めていきたい、皆さんとともに頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

原発事故以降、私たちの生協の組合員の1/4の600人が避難してやめていきました。通常では事業として成り立たない状態になったわけです。しかし皆さんのご支援のおかげで現在では震災前の1/5、230名ほどの減少で済んでいます。前年度比85%で通常の事業としては困難な状態にあります。でもその中で私たちは多くのことを学びました。

支えて頂いたことが大きな力になっています。とりわけ常総さんはポイント・ポイントで出てくるんです。その象徴的なものは綿の布団の贈呈でした。



昨年10/20 ふくしまの組合員さんへの綿ふとん贈呈

この綿布団は今でも引き継がれています。昨日も、「子供が大きくなったので、布団とおくるみを次の方に渡してください」とおっしゃるお母さんがいました。皆さんから送られた布団が次の赤ちゃんに渡されていく状況にあるわけです。

心のこもった手作りの布団は、心も一緒に伝えてくれます。それが非常に私たちを元気づけてく

8/24～25 あいコープふくしまの親子が放射能からの保養を兼ねてバスで綿畑に遊びに来ます。交流会を予定しています。



ふくしまの組合員さんとの交流会（郡山市）

れました。

贈呈を受けたひとりの方が、実は東電の社員の家族だったんです。その方が今までずっと重苦しい思いを抱えていて、自分の家族が東電だと言えなかった。しかし常総さんの暖かい布団の支援を受けることによって、はじめて「ひまわり」（あいコープふくしまの機関紙）に「東電の家族ですが、その中でも必死に頑張っています」と名前を入れて書いてくれたんです。

今までプレッシャーで閉じていた心をはじめて開いてくれたわけです。皆さんの暖かい心が、心をとほぐしてくれたと思っています。

だから協同組合とは何かと論ずるより先に、昨年1年の実戦で皆さんも我々も体験し、学んだと思います。

皆さんからの支えをベースに、これから何年も、今まで以上の一人ひとりが協同する組合員としての成長をしていける確信を持ち始めています。ぜひ今後よろしくお願ひします。

孤独死も、自殺も、格差も、社会的問題が凝縮している被災地 皆さんから頂いたものをお返すのが自分の遺志

石巻 高橋徳治商店 高橋英雄社長

ゴマをするわけではありませんが、大好きな生協だけは総代会に出させていたでいておられます。来なくなったら嫌な生協になったんだなと思ってください。まずは総代会おめでとございます。昨年よりもいいズボンとネクタイをして参りました。昨年は、頬もこけていましたが、ようやく丸みをおびてきました。

自分の中で記録をとっていこうという気持ちになりまして、写真の編集をいましてお願ひしております。なぜならまだまだ風景が大きく変わっていません。

被災地石巻その近郊は600人と一番亡くなった方



や行方不明者が多い状況で、海の中にはまだ200～300万トンの瓦礫が入っている状況です。

自分の同級生が亡くなった、あるいは親御さんが亡

くなったという子供がいて、その子が学校に通う。今までの自分の学校には通えないからバスで通う。学校でもまたジレンマがある。



避難所では一生懸命親を支えていました。本当にけなげに親を支えていたんです。

しかしそれが仮設住宅に住むと今度は4畳半2つ。自分の場所がないので親に遠慮して。

残念ながら石巻では昨年の秋、4割もドメスティックバイオレンスが増えた。子供は居場所がない。我々の世代が未来をバトンタッチしないといけない子供がそういった状況になっている。孤独死も、自殺も、格差も社会的な問題が被災地に凝縮していると言われています。

私は皆さんの前で62歳にして大きな借金を背負って出発できると、80歳まで頑張るといってお話します。そして記録を残すのは私にとって遺言だと。

遺言というのは、皆さんから頂いたものを返すのが自分の遺志だと思っています。ですから私の子供を含めて、会社のスタッフは社長からこうゆうものをもらった、常総生協からこういうことを頂いたということ自分たちの問題として受け止めておとしてほしいな

と思っています。

それからもう一つは自分の生として遺言を残したい。今日明日死にたくないし、私にはやりたいことがいっぱいあります。ここでけじめをつけて心の中のものや言葉を言葉にしないと自分が潰れてしまう。

原発の再稼働・・・「こんなことがあってもまだわかんないのか」と思います。何が大事なんだ。わかってんだらうか。人の命なんです。ところが「日本の国民の生活を守る」などと平気で言う、なんとか大臣。顔も名前も言うのも嫌ですが。それは政府の考え方であり今の日本の流れを作ってきた考え方ですが、私達には福島も含めてここで止まっているわけにはいかない。だから先ほど福島の佐藤理事長がおっしゃったように、あったかい気持ち。ひとりひとりの声、力は少ないです。それが本当の協同の力だと、みんなの力になると私は信じております。自分もその一翼を担えればと考えております。今日は皆さんの活発な議論を聞いて勉強させていただきます。



総代会後の交流会で常総生協のエプロンをつけてお話しする高橋社長

体育会系の常総生協さん！ほんと盛り上げてもらいました

福島県相馬市 NPO 相馬はらがま朝市クラブ 代表 高橋永真さん



常総生協の皆さんには震災直後から組合員さんからの支援物資等を、柿崎さんにはボロボロの格好で寝ないで随分届けてもらった記憶があります。

そのときは私も家も会社も流され、プラス放射能ということで、すべて失ってしまったので、本当にどうやったらいいかわからず、正直何もできませんでした。

でも仮設や避難所にいるのも辛いということで仲間を集めてとりあえず朝市をやらせようと思いました。

そんな声を聞いて常総生協さんは行動派の体育会系ですから、上の人から無理やりイケ！ということだっ

たのか、ほんと盛り上げていただきました。

一番盛り上げていたのは、この「ねぼうま」。相馬の水産加工品の第一号なんです。

沼屋本店の社長さんから、常総の皆さんが作ったすごい美味しい醤油を頂いて、いろいろなものを合わせた本当に絆の商品なんです。

この3.11になんとか加工工場を立ち上げたのですが、その第一号に製作したのがこの商品なのです。

他の生協さんもそれはいい話だということで、協力してくれ、なんとか風評被害にも負けずに軌道にのり

